

順雲山 光照院 普仙寺 <h1 style="font-size: 2em;">普仙寺だより</h1>	発行 浄土宗 順雲山 光照院 普仙寺 第294号 令和3年 1月8日
--	---



令和3年1月1日修正会にて
修正会に参拝された檀信徒の皆さん

うしどし
丑年は
いつから

令和三年は、干支（えと）では辛丑（かのと・うし）に当たります。

干支は中国暦に発し、千十二支を組み合わせて年を数えます。

十干は、
きのえ 甲・乙・丙・丁・戊・
つちのと 己・庚・辛・壬・癸

十二支は、
ね 子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未
さる 申・酉・戌・亥

中国暦における年の数え方です。中国暦の新年から丑年（うしどし）になる訳です。

そのため旧正月の日、つまり西暦二〇二一年二月二十二日から丑年です。



令和2年12月20日、華頂婦人会役員の方々に年末の大掃除をして頂きました。

年末大掃除

令和二年十二月二十日に、華頂婦人会の役員の方

に、年末の大掃除をして頂きました。境内や墓地をきれいにさせて頂きました。



令和2年12月20日、世話人会役員の方々に年末の大掃除をして頂きました。

年末大掃除

令和二年十二月二十日に、世話人会の方に年末の

大掃除をして頂きました。墓地の側溝掃除や本堂・玄関・鐘楼・山門などをきれいにさせて頂きました。

住職の短歌

令和2年に詠んだ短歌の
続き（前回は令和2年10
月号）を掲載します。

三門の参道脇に咲いている
八重の梔子今が盛りだ
白川のひとり歩けば真白な
る早咲き木槿二輪三輪
小小坊の白く小さな花が咲
く令和二年の女坂道
知恩院バス停横の鉢植えは
濃い紫の鉄線の花
岐阜羽島駅のホームの親子
連れそぞろ歩きの夏の夕暮
れ

父親に抱かれて覗く男の子
新幹線の運転席を

早緑の稲田清しい滋賀平野
令和二年の六月の末

拝殿の選択集の輪読はオン
ラインでの初の試み

紫陽花の花を眺めて思い出
す学生街の雨の一日

六月の光る緑の伊吹山毅然
の様は錬士の如く

七月の米原駅の周りには緑
の色の稲田広がる

マイナスの名前悲しい藪枯
らし花蜜甘く虫は好きでも

昼過ぎの新幹線の一号車独
り座ってマスク着用

七月の梅雨明け前の伊吹山
淡墨色の雲に隠れて

夏の日の朝日に光る隠蓑蕾
の粒が開花待ってる

昨日は蕾のままの蓮の花今
日は開いて淡い紅色

赤人が久木と詠めるその木
には若き実が成る夏の参道

知恩院三門前の参道に高く
大きな榎茂れり

梅雨明けの八月初め伊吹山
令和二年を如何に眺めん

夏空の強き日差しを受けて
立つ伊吹の山は頼もしきか
な

鴨川の橋の欄干寄り掛かり
令和二年の送り火を見る

京都にて岡井隆の訃報聞く
批評頂く豊橋の夜

朔太郎賢治の講義思い出す
岡井隆の詩歌教室

少しずつ稲刈りあとの滋賀
平野令和二年の九月上旬

白雲の動きを容れて座して
いる緑色濃い初秋の伊吹

初めてのPCR検査する秋
の宗会出席のため

コロナ過の秋の彼岸の知恩
院御影堂にて和讃奉納

彼岸前朝の微風に揺れてい
る白萩花を暫し眺める

坂道に荒地盗人萩の花薄紫
の色は優しい

住職の短歌

③ ページの続き。

十月の朝の風景鱗雲木曾三川と養老の山

始発待つ新幹線のホームには高校生の旅行の姿

車内には女子高生の旅行者キャツキャツキャツと弾む歓声

ランタナのその原色が面白
い十月半ば寺の坂道

この秋も金木犀の時が来た
青葉の中の可憐な姿

多羅葉の赤く熟した実が光
る参道横の塀のその上

寺行事案内

◎ 毎週土曜日

朝八時三十分～九時

どようらいはい

◎ 土曜礼拝

新型コロナウイルス感染
拡大防止の対策として

1、マスクの着用

2、手指の消毒

3、1メートル以上の間
隔を空ける

4、焼香はひとりずつ
をお願いします。

☆ ふくじゅうしよく
せつきよう

◎ 一月二十五日(月)
中止します。

副住職説教

☆ かんねんぶつ
寒念仏

◎ 一月三十日(土)
中止します。

通常の土曜礼拝をお勤
めします。

☆ ぜんこうじによらい
えんにち

善光寺如来

縁日

◎ 二月八日(月)

住職と副住職とで勤めま
す。参拝不要です。

☆ つきなみほうよう

月並法要

◎ 二月八日(月)
中止します。

☆ ぎよきほうよう

御己心法要

◎ 二月二十日(土)

住職と副住職とで勤めま
す。参拝不要です。

法然上人の忌日法要を
御忌(ぎよき)と呼びま
す。普仙寺ではこの地方
の習慣に倣い月遅れでお
勤めします。

「普仙寺だより」二九四号
発行 令和三年一月八日
発行所 普仙寺
発行社 加藤良光
〒四四一・八〇九三
豊橋市牟呂中村町六の五
電話番号
〇五三二・三一・七四五七